

# 安全対策のポイント<家の周囲>

地震が発生すると、家の周囲にも危険なところがたくさんあります。危険箇所の点検や補強・固定などの安全対策が必要です。また、この対策は台風などの強風対策にもなります。

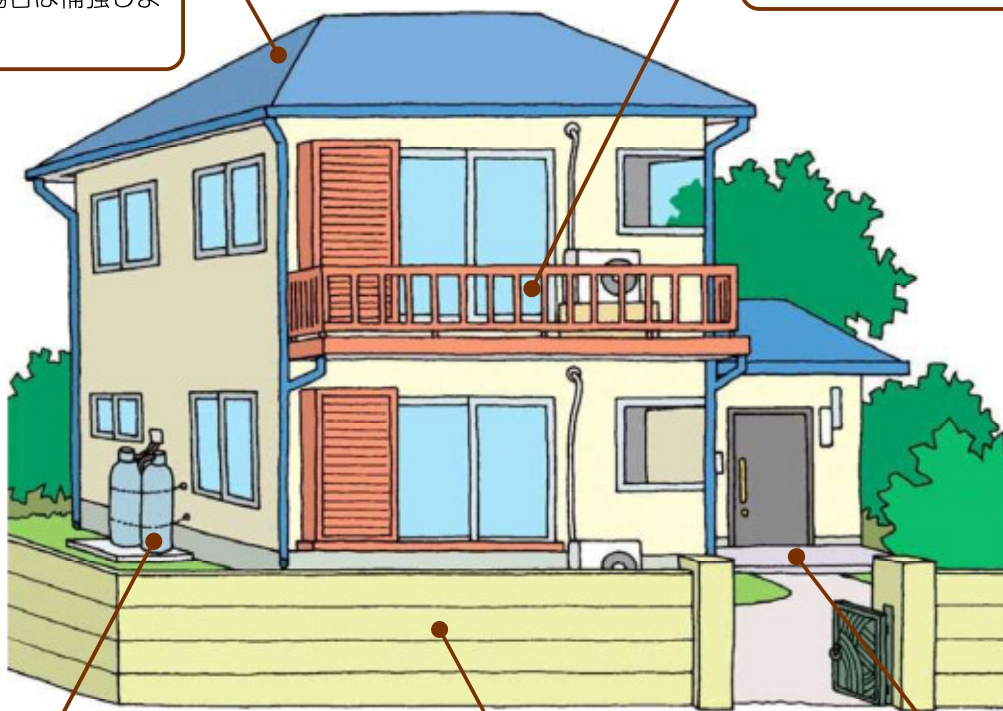
## 家の周囲の安全対策ポイント

### ●屋根

屋根瓦やアンテナが不安定になっていないか確認し、問題がある場合は補強しましょう。

### ●ベランダ

整理整頓し、落下する危険がある植木鉢やエアコンの室外機は配置を変えるか固定をしましょう。



### ●プロパンガス

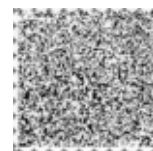
倒れないように、しっかりとした土台の上に置き、鎖で壁面に固定しましょう。

### ●ブロック塀

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは補強しましょう。ひび割れや傾き、鉄筋のサビがある場合は修理しましょう。

### ●玄関まわり

自転車や植木鉢など、出入りの支障となるものは置かないようにしましょう。



音声コード掲載

# 安全対策のポイント<家の中>

地震のときに、部屋の家具が倒れて出口をふさいだり、食器棚の中の食器類が散乱したりなどしないよう、金具などで固定するなどの安全対策が必要です。

## 家の中の安全対策ポイント

### ●食器棚

扉が開かないよう金具を付け、食器が飛び出すのを防ぎましょう。  
ガラス部分には飛散防止フィルムを貼りましょう。

### ●照明器具

1本のコードでつるすタイプの物は、透明な釣り糸などで3カ所以上留めましょう。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておきましょう。直付けタイプがより安全です。

### ●住宅用火災警報器

煙や熱を感知すると警報音で知らせてくれます。  
消防法改正により家庭でも設置が義務付けられています。

### ●カーテン(難燃性)

防火加工されたものを使いましょう。

### ●窓ガラス

飛散防止フィルムを屋内側に貼りましょう。

### ●テレビ

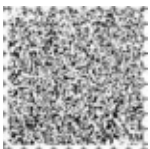
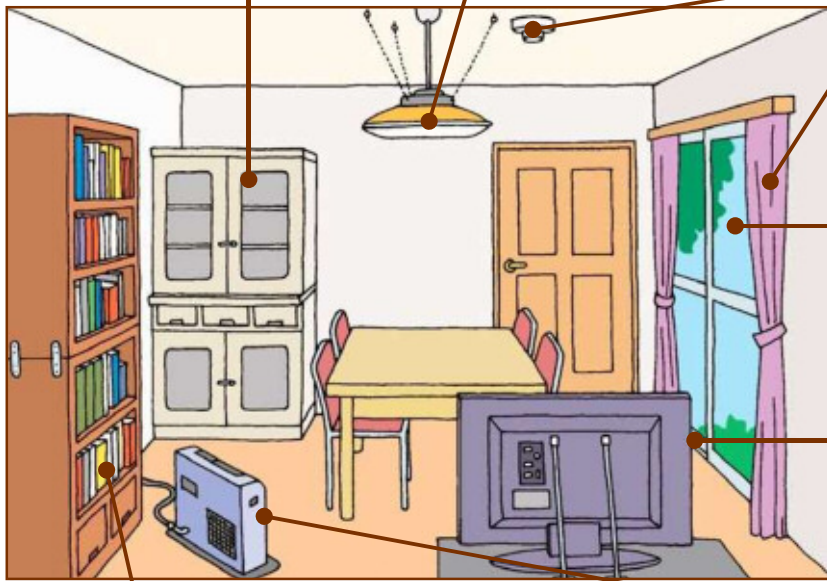
できるだけ低い位置に置いて、金具やロープ、装着マットなどで下面・柱・壁に固定しましょう。

### ●本棚・タンスなど

転倒防止のため、なるべく壁面に接近させておき、上部をL字型金具で固定するか、家具の下に板などをはさんで、壁面にもたれさせましょう。二段重ねの場合、つなぎ目を金具で連結しましょう。

### ●暖房器具

ストーブなどの暖房器具は、耐震自動消火装置のあるものかどうか確認しておきましょう。



音声コード掲載

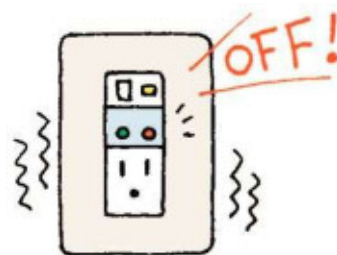
その他、出入り口や通路、寝室や子ども、高齢者、障害者がある部屋には、なるべく家具や荷物を置かないことも大切です。また、家具類は火災保険の特約条項の対象となっている場合は、傷がついたら必ず写真を撮っておきましょう。

# 感震ブレーカー・各種サポートの紹介

近年発生した大規模地震による火災の過半数が、電気器具や配線の損傷による出火でした。これらの電気による火災は、地震が発生した直後や地震による停電から復旧までの間に発生しています。

電気火災を防ぐために、大きな揺れを感知して電気を遮断する「感震ブレーカー」の設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段のひとつです。

そのほか、埼玉県では家具固定サポーター登録制度、市では地震保険の検討に対するサポートも行っています。



## 家具固定サポーター



## 家具固定サポーター登録制度

埼玉県のホームページなどで家具類の固定に関する相談、見積りや施工を安心して依頼できる登録事業者の情報を紹介しています。

※施工は有料



家具固定サポーター

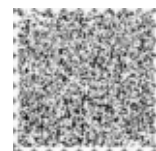
## プロに学ぶ地震保険（出前講座）

企業版防災アドバイザー（防災に関する専門知識や知見をもった民間企業）が地震保険の仕組みやスムーズな住宅・生活再建の役立て方を自治会・自主防災組織を対象に講演します。本取組は、市の施策や制度・事業などについてお話しをする出前講座のひとつとして行っております。

詳しい内容は市のホームページに掲載しています。



出前講座



音声コード掲載

# 防災をはじめよう<部屋の中>

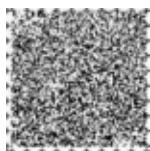
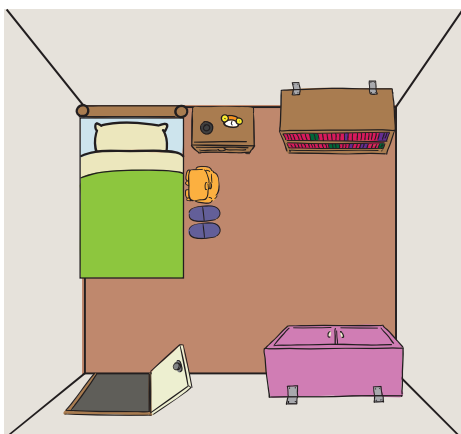
家の中で災害に見舞われたとき、身の安全を確保することがとても重要です。被災したときに部屋の中でケガをしないよう、防災対策を行いましょう。

## 部屋のレイアウトを工夫しましょう

ふだんの生活の中で家具や家電が倒れてきたり、物が落下してきたりしたときに、どのような危険が起こりうるかをチェックしましょう。

- 部屋の出入り口まわりに、家具や家電が倒れて、避難の妨げにならないように注意しましょう。
- 寝ているときに家具が倒れて下敷きになったり、物が落ちてきて頭などにケガをしたりしないよう、ベッドなどの寝具は安全な場所に配置しましょう。
- また、家具や家電などの向きや配置も工夫しましょう。

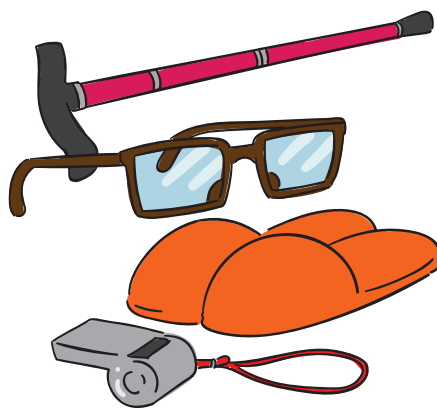
- 寝ているときの災害に備えて、避難するときの必需品を手の届くところに置いておきましょう。
- 災害が起こったときに、ケガを避け、スムーズに避難することができるように、枕元など手の届くところに必要なものを準備しておきましょう。
- 停電したときに備えて、非常用ライトを用意しておきましょう。
- 懐中電灯のほか、ヘッドライト、人や停電・揺れなどを感知して自動点灯するライトなどで明かりを確保できるようにしましょう。



音声コード掲載

## 部屋にガラスなどが散乱したときに備えて、履物を用意しておきましょう。

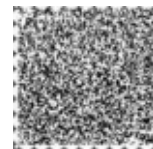
- 厚底の靴や防災用のスリッパなどを履いて、足をケガから守りましょう。
- 家具の倒壊や避難路がふさがれて避難ができないときなどに備えて、ホイッスルを用意しておきましょう。
- また、杖やメガネなどもすぐ手が届く場所に置いておくなど、行動に不便が起きないように準備しておくことがとても重要です。



大地震により、家の中に壊れた家具の破片や割れたガラスが散乱すると危険です。  
可能であれば、スニーカーを足元に準備してください。

## ケガをしないための更なる工夫を心がけましょう

棚の上段など高いところに重たいものや硬いものを置かず、下段に収納する、ガラス製品や磁器・陶器のような割れやすいものは常に片付けておく、インテリア雑貨を軽くして割れにくい材質の物に変えてみるなど、災害が発生したときの被害を意識して、更なる工夫をこらすことがとても大切です。



音声コード掲載



# 安全対策のポイント<高層マンション>

高層マンションは大きな地震が発生したとき、高層階になるほど大きく揺れて被害が大きくなるおそれや、ライフライン・エレベーターの停止によって、日常生活に支障が出るのが危惧されます。

最新のエレベーターであっても、6秒以上大きく揺れるとセンサーが作動して、閉じ込めが起こる可能性がありますので、絶対に大丈夫であると考えないようにしましょう。

## 大きくゆっくりとした揺れに備えて、 家具転倒防止策を実施しましょう

高層階(概ね11階以上)では、大きくゆっくりとした揺れが数分続く場合もあります。家具の転倒・落下防止策を実施しておくことが大切です。



### ●備蓄品は多めに準備しましょう

地震でエレベーターが停止したときに備えて、日ごろから備蓄品を多めに用意しておきましょう。

### ●大地震が発生したときに、ライフラインの安全を確認しましょう

●大きな地震後は電気のブレーカーを落とし、ガス・水道の元栓を閉め、安全の確認ができるまで使用を控えましょう。

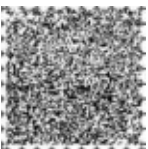
●トイレは、排水管の状況が確認できるまで使用せず、簡易トイレなどで対応しましょう。



市では、高層マンションにおける地震発生時の対応や日ごろの対策などを示した「高層マンション防災ガイドブック」を各区情報公開コーナーなどで配布しています。



高層マンション  
防災ガイドブック



音声コード掲載

# 安全確保のポイント<屋外>



## 路上

手荷物などで落下物などから頭を守り、広場などに避難しましょう

- 手荷物などで頭を守り、近くの新しい建物の中に入るか、公園や広場など広くて安全な場所に移動しましょう。
- 繁華街ではガラスや看板などの落下物に注意しましょう。
- 住宅街ではブロック塀や門柱から離れて移動しましょう。自動販売機の転倒などにも注意が必要です。
- 液状化の影響で電柱の傾きや道路の陥没、地盤の亀裂などが発生するおそれがありますので、気をつけましょう。



## 車(運転中)

道路左側に停止してエンジンを切り、車の中で災害情報を確認しましょう

- 徐々に車のスピードを落とし、道路の左側に停止してエンジンを切りましょう。
- 揺れがおさまるまでは車の外に出ず、カーラジオなどで情報を確認しましょう。
- 車を離れるときは、キーを付けたままで、ドアのロックもしないようにしましょう。
- 連絡先を書いた紙をフロントガラスへ置きましょう。



## 電車・バス

つり革や手すりにつかまって停車の衝撃に備え、手荷物で頭を保護しましょう

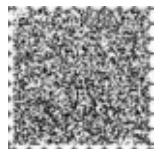
- 停車のときの衝撃に備えて、つり革や手すりにしっかりとつかまりましょう。
- 網棚からの荷物の落下に備えて、手荷物で頭を保護することが大事です。
- 勝手に車両から降りるなどせず、乗務員の指示に従いましょう。



## がけ付近、海岸

危険性のある場所からは、ただちに離れて安全を確保しましょう

- がけ付近にいたら、崩れる危険性のある場所からすぐに離れましょう。
- 海岸にいたら、ただちに高台や近隣の高い建物、指定の避難場所へ逃げましょう。



音声コード掲載

# 防災をはじめよう<持ち歩きアイテム>

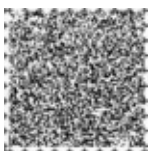
地震などの災害はいつ、どこで起きるかわかりません。

いざというときに必要なものは、いつも持ち歩くことを習慣にしましょう。

バッグは両手がふさがらないリュックサックやショルダーバッグ、折りたたくで持ち運びできるエコバッグなどが便利です。

## 普段から持ち運びたいアイテム

- 筆記用具・メモ帳
- レインスーツ
- ポリ袋
- 簡易食（あめ・チョコなど）
- ウェットティッシュ
- 鏡
- モバイルバッテリー
- スキンケアクリーム
- ヘアゴム
- メガネとコンタクト
- 生理用品
- サバイバルカード
- 常備薬
- 歯磨きセット・マウスウォッシュ
- 防災・緊急時安心カード
- 救急キット
- 防犯ブザー
- 身分証明書
- マスク
- 笛
- 10円玉数枚（公衆電話用）
- カイロもしくは冷感タオル
- 非常用ライト（ネックライトなど）
- 大判ストール・ハンカチ
- 携帯用トイレ



音声コード掲載



# 安全確保のポイント<屋内>



## デパート・スーパーマーケット

壁に身をよせて頭を守り、店員の指示に従いましょう

- 商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意しましょう。
- 壁や壁際に身をよせ、手荷物で頭を守ることが大切です。
- あわてて出口に殺到するとパニック状態になることもあり非常に危険です。
- 店員の指示に従って行動するよう心がけましょう。



## エレベーター

すべての階のボタンを押し、すみやかに降りましょう

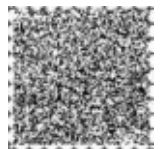
- エレベーターが自動で停止しない場合、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出ましょう。
- 閉じ込められた場合、非常ボタンやインターホンで外部と連絡をとって、救出を待ちましょう。
- 外部と連絡がとれない場合でも救出されますので、天井から脱出するなどの無理な行動はやめましょう。



## 地下街

壁に身をよせて揺れがおさまるのを待ち、  
落ち着いて行動しましょう

- 大きな壁や柱に身をよせて、揺れがおさまるのを待ちましょう。
- 地下街には約60メートルおきに出口があります。
- 停電しても非常灯は点灯しています。落ち着いて行動しましょう。
- 火災が発生したら、ハンカチなどで鼻と口を覆って避難しましょう。



音声コード掲載

# 帰宅困難時の行動

## 発災後のむやみな移動は控えましょう

大地震直後に移動すると、各地で発生する混雑や集団転倒に巻き込まれる危険や火災・ガラスなどの落下によるケガのおそれがあります。また、救助・救命活動や消火活動などの妨げにもなります。



## 外出先で帰宅困難になった場合、一時滞在施設に留まりましょう

一時滞在施設（市内の主要駅周辺の公共施設や市と協定を結ぶ民間施設）は帰宅困難となった人を一時的に受け入れる施設です。可能な範囲でトイレ・水道水・食料などの提供も行います。

## 徒歩帰宅の際は「災害時帰宅支援ステーション」を活用しましょう

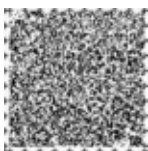
さいたま市を含む九都県市※と帰宅支援協定を結んだコンビニエンスストアやファミリーレストラン、ガソリンスタンドなどの災害時帰宅支援ステーションでは災害発生時に、水道水やトイレ、情報の提供を受けることができます。



## 電話やメールが通じなくなった場合の連絡方法や集合場所などを家族と決めておきましょう

子どもがいる場合、学校などに迎えに行く方法も決めておきましょう。

職場には徒歩帰宅を想定して、歩きやすい靴・地図・非常用ライト・簡易食・飲料水・モバイルバッテリー・携帯ラジオ・防寒具などを備えておきましょう。



音声コード掲載

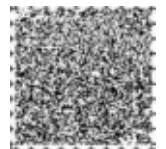
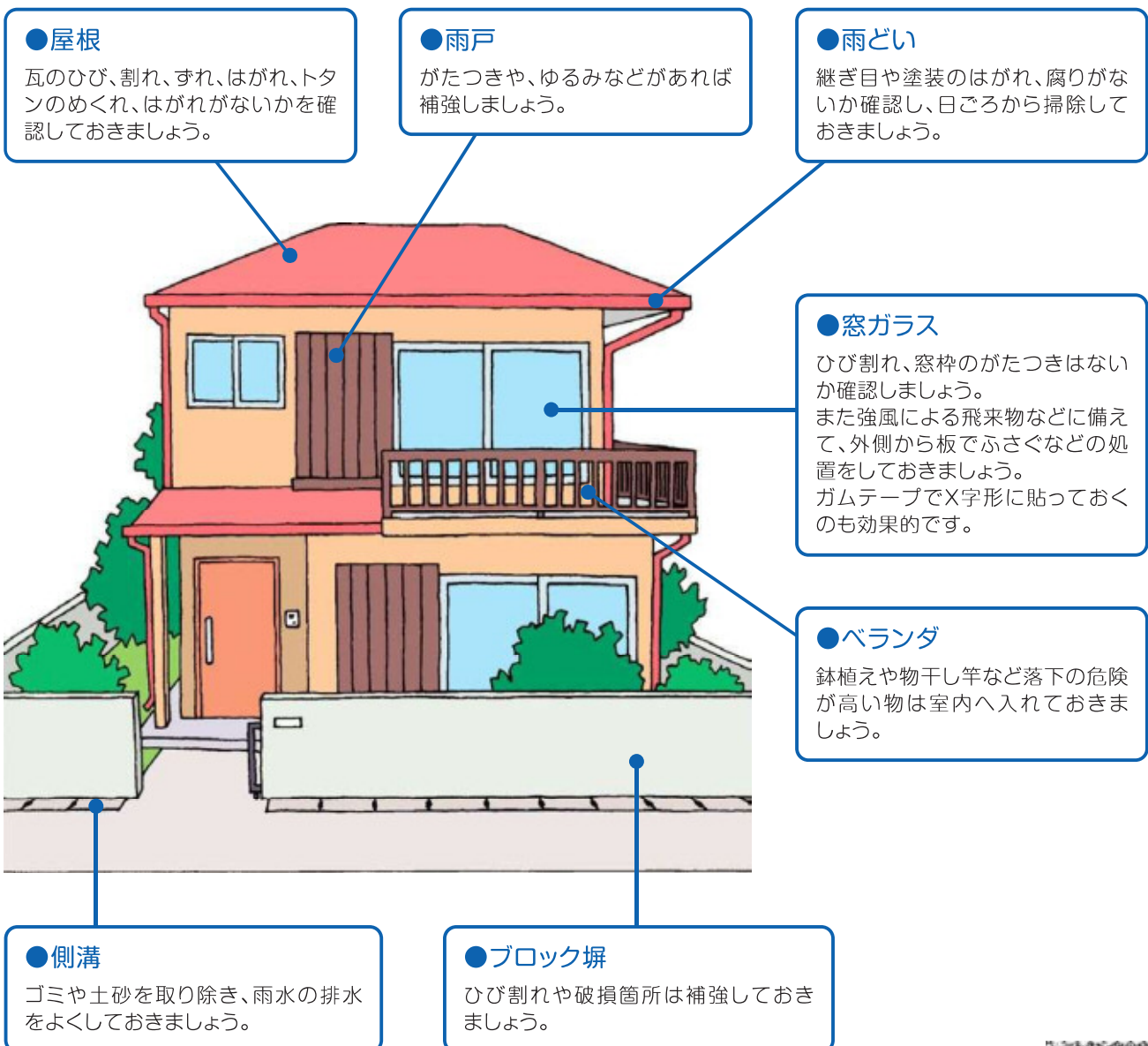
市では、従業員を安全に施設内に留める「一斉帰宅抑制」という帰宅困難者対策に取り組む事業者を「帰宅困難者一斉帰宅抑制対策事業者」として登録し、市ホームページで公表しています。

※「九都県市」埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市

# 安全対策のポイント

台風や集中豪雨は、毎年のように全国各地に大きな被害をもたらしています。さまざまな風水害から身の安全を確保するために、日ごろから十分な対策を立てておくことが大切です。

## 家の周囲で行う対策ポイント

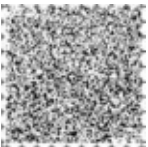


音声コード掲載

# 台風などが接近してきたときの対策ポイント

## 台風などが接近してきたときの対策ポイント

- ① 最新の気象情報をインターネット・テレビ・ラジオなどで集めましょう。
- ② 情報収集に使う携帯電話やパソコンを事前に充電しておきましょう。
- ③ 避難のための非常持出品を準備しましょう。
- ④ 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを準備しましょう。
- ⑤ 断水などに備えて、飲料水などを確保しておきましょう。
- ⑥ 浴槽に水をはり、生活用水を確保しておきましょう。
- ⑦ むやみな外出は控えましょう。外出している場合は、早めに帰宅しましょう。
- ⑧ 大雨でワイパーやブレーキが利かなくなる恐れがあるので、車の運転は控えましょう。
- ⑨ 浸水のおそれがあるところでは、家財道具・食料品・生活用品などを高い場所へ移動させておきましょう。
- ⑩ 高齢者や乳幼児、病人などを安全な場所へ避難させましょう。
- ⑪ 各河川の洪水ハザードマップをチェックし、自宅から、より近い浸水想定区域外の高台や指定緊急避難場所を確認しておきましょう。





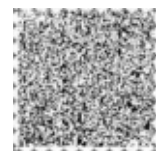
# 雨・風の強さとその影響

風水害による被害を最小限に抑えるため、気象情報でよく聞く「非常に強い風」や「猛烈な雨」などの表現を正しく理解し、影響を把握できるようになりましょう。



風の強さと被害			
風の強さ (予報用語)	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車
やや強い風 (平均風速10~15m/s)	風に向かって歩くことが難しい。 傘がさせない。		
強い風 (平均風速15~20m/s)	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。 高い場所での作業はきわめて危険。		
非常に強い風 (平均風速20~30m/s)	何かにつかまっていなくて立ってられない。 飛んでくるものでケガをするおそれがある。	屋根瓦が飛散する。 看板が落ちて破片が飛び散る。 道路標識が傾く。  木や電柱などが倒れる。 ブロック塀が倒壊する。	車を運転することが難しい。
猛烈な風 (平均風速30m/s以上)	屋外での行動はきわめて危険。		走行中のトラックが横転する。

雨の強さと被害		
予報用語	雨の降り方	走行中の車
やや強い雨 (1時間雨量10~20mm)	ザーザーと降る。 家の中では話し声が聞き取りにくい。	
強い雨 (1時間雨量20~30mm)	どしゃ降りとなる。 傘をさしていてもぬれる。	ワイパーを速くしても見づらい。
激しい雨 (1時間雨量30~50mm)	バケツをひっくり返したように降る。 道路が川のようになる。	スピードを出すとブレーキが効かなくなる。 (ハイドロプレーニング現象)
非常に激しい雨 (1時間雨量50~80mm)	滝のように降る。 水しぶきで視界が悪くなる。	車の運転は危険。
猛烈な雨 (1時間雨量80mm以上)	恐怖を感じる。 息苦しくなるような圧迫感がある。	



音声コード掲載



# 主な防災気象情報の紹介

風水害に関しては数多くの防災に関する気象情報が発表されます。これらの情報をもつ意味を理解し、いざというときに備えましょう。

## 主な防災気象情報

### 特別警報

数十年に一度の大災害が起きると予想される場合に発表されます。危険な区域から避難できない方は、命を守るための最善の行動をとりましょう。

### 警報

重大な災害のおそれがあるときに発表されます。

### 注意報

災害のおそれがあるときに発表されます。ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう。

### 土砂災害警戒情報

土砂災害のおそれがあるときに発表されます。すみやかに安全な場所へ避難しましょう。

### 台風情報

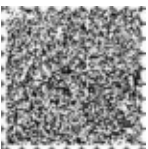
台風が発生したときに発表されます。予想進路に注意して、非常持出品や非常用ライトを準備しておきましょう。

### 竜巻注意情報

竜巻・ダウンバースト(下降噴流)などによる激しい突風が発生しやすいときに発表されます。

### 線状降水帯

多くは暖候期に発生し、大きな災害の要因となる集中豪雨を引き起こすことがあります。



音声コード掲載

# 危険の確認(避難情報・警戒レベル)

災害発生時、自らの命を主体的に守る避難行動がとれるように、5段階の警戒レベルで発令します。自治体から警戒レベル3・4が発令された地域の住民はすみやかに避難してください。

警戒レベル	避難情報	住民がとるべき行動
5	災害発生情報	すでに災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動をとりましょう。
4	避難勧告・避難指示(緊急)	全員、すみやかに避難先へ避難しましょう。 避難先までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
3	避難準備・高齢者等避難開始	高齢者などの要配慮者やその支援者は避難しましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。
2	洪水注意報・大雨注意報など (気象庁発表)	避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。
1	早期注意情報(気象庁発表)	警報級の災害が起こる可能性がある場合に発表されます。 災害への心構えを高めましょう。



## 車での避難は危険

道路冠水などにより車が水に浸かった場合、浸水深30cmを超えるとエンジンが停止し、50cmを超えると、車内に閉じ込められ車とともに流されるなど、非常に危険な状態となります。  
避難所へは、原則、徒歩で避難しましょう。



音声コード掲載

# 安全確保のポイント(竜巻・土砂災害・ゲリラ豪雨)



## 竜巻

竜巻は発達した積乱雲にともなって発生する激しい渦巻きです。竜巻が発生したら、すぐに身を守る行動をとりましょう。

気象庁の「竜巻注意情報」や黒雲が近づく、雷が鳴る、冷たい風が吹き出す、大粒の雨やひょうが降り出すなどの気象変化に注意してください。

### ●屋内での行動

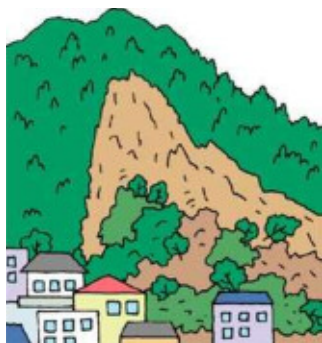
窓やカーテン、雨戸などを閉めて、窓から離れましょう。

1階や地下の丈夫な机の下などで身を小さくして頭を守りましょう。

### ●屋外での行動

頑丈な建物に避難しましょう。ない場合は、物陰に身を伏せ、両腕で頭と首を守りましょう。

物置やプレハブの建物、電柱や樹木などは倒壊することがあるので危険です。



## 土砂災害

土砂災害の多くは、長雨や豪雨などのときに発生します。前兆現象に気づくなど、身の危険を感じたら、早めに避難しましょう。

特に土砂災害(特別)警戒区域に指定された場所は注意が必要です。

### ■注意が必要な前兆現象

- 斜面の変化(ふくらみや亀裂の発生・小石の落下・水の噴出)
- 井戸や川などのにごり
- 地鳴り・山鳴り



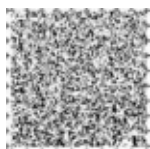
## ゲリラ豪雨

ゲリラ豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、その予測は非常に困難です。

気象情報をこまめに確認し、積乱雲が近づいてくるなどの天候の変化を感じたら、安全な場所に避難しましょう。

### ■ポイント

- 河岸などに近づかない。
- 地下から出て、建物の1階以上に避難する。
- 路面の冠水などの危険を避けるため、自動車の運転は控える。



音声コード掲載

# 安全確保のポイント(大雪・火山災害)

雪が降り積もった後は、ケガや事故などが起こりやすいので、不要不急の外出は控えましょう。やむを得ず外出するときには、すべりにくい靴や長靴を履く、手袋をする、荷物はリュックなどで背負う、レインスーツなどを着るといった雪の日に適した服装を心がけましょう。



## 雪の日の屋外での注意ポイント

50歳代から70歳代の方に転倒による負傷が多く発生しています。

また、転倒の際に頭を路面に打ち付けると脳梗塞などが後日(1~2か月後)に発生するおそれがあり、大変危険です。

### ●車庫 (カーポート)

簡易な構造のカーポートは、雪かきがなされていない場合、屋根が崩落するおそれがあります。

### ●坂道

坂道は上るときよりも下るときの方が危険です。下るときにはすべって転ばないように注意しましょう。

### ●建物の屋根

軒下は危険です。屋根の雪が落ちてくると軒先からせり出した氷柱などが直撃することがあります。

### ●横断歩道

雪が踏み固められてすべりやすくなります。転ばないように注意しましょう。

### ●車の運転

スタッドレスタイヤの装着およびチェーンの携行または装着をしましょう。

### ●歩道橋

歩道橋は凍結しやすく雪が溶けにくいいため、すべりやすいので注意しましょう。

## 火山災害への対策

市域は、富士山や浅間山などで大規模な噴火が起きた場合、火山灰などによる健康被害が生じる可能性があります。マスクをするなどして身を守りましょう。

また、家の中に火山灰が入らないように窓を閉め、洗濯物は外に干さないことや、自動車を運転する場合は、すべりやすくなるのでスリップに注意することも必要です。



音声コード掲載



# 危険の確認(テレ玉・Yahoo!)

市では、データ放送「テレ玉」や「Yahoo!防災速報」で防災情報の提供を行っています。

## データ放送「テレ玉」

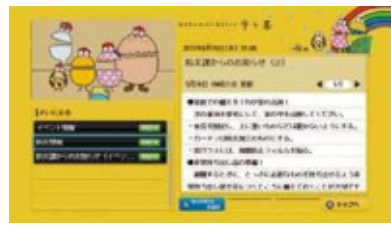
地上デジタル放送の3チャンネル「テレ玉(株式会社テレビ埼玉)」での市発信のデータ放送を実施しています。視聴は無料です。

**提供内容**

災害時は緊急情報、避難情報、支援情報を提供しています。  
平常時は防災情報、防災行政無線で流した緊急放送内容および市からのお知らせを提供しています。



データ放送「テレ玉」



データ放送を視聴するには  
テレビのチャンネルを「テレ玉」に  
して、リモコンの「dボタン」を押す

「市町村からのお知らせ(さいたま市からのお知らせ)」を  
選び、リモコンの「決定」ボタンを押す

## Yahoo!防災速報



ダウンロード

緊急地震速報や豪雨予測などの防災情報を配信する「Yahoo!防災速報」を利用して、市域の避難所開設状況や避難情報などの緊急情報を配信します。



「Yahoo!防災速報」で市域の緊急情報を受け取るには  
スマートフォン(アプリ)

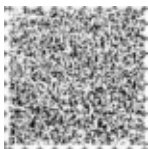
- ①初期設定でお住まいの地域(区)を選択
- ②設定画面で「自治体からの緊急情報」の「プッシュ通知」がオンになっていることを確認



Yahoo!  
防災速報

パソコン・携帯電話

メール版で情報を受け取れます。設定画面の「STEP3 通知する情報を選択」で「自治体からの緊急情報」にチェックを入れてください。  
登録方法等、詳しくはYahoo! JAPAN ホームページをご覧ください。



音声コード掲載



Yahoo! 天気

現在地や登録地点の天気などを確認することができます。  
また、河川などの水位情報やライブカメラの画像、  
洪水ハザードマップで公表している河川の浸水想定区域図の  
確認も行えます。



# 危険の確認(さいたま市の防災情報)

市では、ホームページや Facebook・Twitter で防災情報を提供しています。

## さいたま市ホームページ

ホームページトップ画面の「防災・気象情報」をクリック、続いて「さいたま市防災行政無線放送内容」をクリックすると、防災行政無線（緊急放送）の内容を確認することができます。「さいたま市の注意報・警報」をクリックすると、現在発令されている注意報・警報の内容や気象情報などを確認することができます。



さいたま市  
ホームページ

「さいたま市防災行政無線内容」  
をクリック！

39 ページ参照

「さいたま市の注意報・警報」  
をクリック！



## Facebook・Twitter

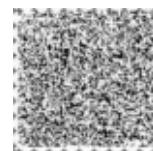
市では、Facebook および Twitter でも災害などの緊急情報を発信しています。



Facebook



Twitter



音声コード掲載

# 危険の確認(防災行政無線)

## 「防災行政無線」では避難情報などを放送します

災害時などにおける市民への情報提供手段のひとつとして防災行政無線を整備しています。市の公共施設や学校、公園などに設置しており、「こちらは防災さいたまです」からはじまる放送が流れます。

### 災害時の主な放送

- 特別警報
- 緊急地震速報
- 避難勧告
- 避難指示(緊急) など

### 災害時以外の主な放送

- 定時放送(夕方のメロディ放送)
- 光化学スモッグ注意報・警報の発令情報
- PM 2.5注意喚起情報
- 行方不明人の捜索依頼放送
- 児童見守り啓発放送
- 振り込み詐欺被害防止放送
- 熱中症に対する注意喚起放送

## 「さいたま市防災行政無線メール」を配信しています

防災行政無線で放送した内容をメールでお届けする「防災行政無線メール」を配信しています。

登録することで、いつでもどこでも放送内容を確認できます。防災行政無線が聞き取りづらかったり、聞き逃したりした場合は、このメールも活用しましょう。

登録方法など、詳しくは市ホームページに掲載しています。



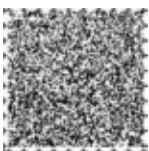
防災行政無線メール



## 情報の入手が困難な高齢者等へ、避難勧告など防災情報を配信します

携帯電話等を所有しておらず、避難勧告など防災情報の入手が困難な高齢者等へ、電話・FAXにより情報を配信するサービスを開始しました。

サービスのお申込みなど、詳しくは防災課またはお住いの区役所総務課にお問い合わせください。



音声コード掲載

# マイ・タイムラインの紹介

「マイ・タイムライン」は、台風の接近によって河川の水位が上昇するときに、時系列に沿って一人ひとりが「いつ、何をするか」をあらかじめ考えるためのものです。

避難に備えた行動は逃げ遅れを起こさないなどの効果があります。どの時期に何をすればよいのかを「マイ・タイムライン」をつくって確認しておきましょう。

市ホームページでは、「さいたま市マイ・タイムライン」および「マイ・タイムライン」を検討する際に利用する「さいたま市マイ・タイムラインノート」を公開しています。



マイ・タイムライン

## 洪水時の避難のポイント

- 1 洪水(河川はん濫)時の避難の原則は「浸水が及ばない安全区域への立退き避難(水平避難)」
- 2 安全区域への立退き避難ができない場合は「上層階が指定されている指定緊急避難場所などへの垂直避難」
- 3 周辺がすでに浸水するなど、立退き避難ではかえって危険な状況では「屋内の高いところへ移動(垂直避難)するなど屋内安全確保」

さいたま市マイ・タイムライン (川版)  
 名前 \_\_\_\_\_ 年 月 日 作成

平常時の確認事項

**○自宅の危険性** ※洪水ハザードマップ・関係機関HP等で確認。  
 ・浸水深: \_\_\_\_\_ m ・浸水継続時間: \_\_\_\_\_ 時間  
 ・家屋倒壊等氾濫想定区域である: はい いいえ

**○避難する場所**  
浸水想定区域外の避難場所 浸水想定区域外にある親戚・知人の家  
近くの頑丈な建物 自宅の浸水しない場所 その他  
 ・避難する場所: \_\_\_\_\_  
 ・避難する場所までの移動時間: \_\_\_\_\_ 分

**○避難場所までの交通手段** \_\_\_\_\_

**○避難開始の判断タイミング** \_\_\_\_\_

**○避難する際に支援してくれる人**  
 ・名前: \_\_\_\_\_ ・連絡先: \_\_\_\_\_

**○持ち物**  
 \_\_\_\_\_

**○関係機関HP等で情報を集める**

さいたま市ハザードマップ	<a href="https://www.city.saitama.jp/001/011/015/002/003/index.html">https://www.city.saitama.jp/001/011/015/002/003/index.html</a>
さいたま市マイ・タイムライン	<a href="https://www.city.saitama.jp/001/011/015/003/003/p063827.html">https://www.city.saitama.jp/001/011/015/003/003/p063827.html</a>
さいたま市水位情報システム	<a href="https://www.flood-info.city.saitama.jp/JP/index.html">https://www.flood-info.city.saitama.jp/JP/index.html</a>
埼玉県川の防災情報	<a href="https://www.pref.saitama.lg.jp/A1007/kawanobousai.html">https://www.pref.saitama.lg.jp/A1007/kawanobousai.html</a>
気象庁ホームページ	<a href="https://www.jma.go.jp/jma/menu/menu/fls.html">https://www.jma.go.jp/jma/menu/menu/fls.html</a>
荒川上流河川事務所	<a href="https://www.ktr.mlit.go.jp/arasjo/arasjo_index004.html">https://www.ktr.mlit.go.jp/arasjo/arasjo_index004.html</a>
利根川上流河川事務所	<a href="https://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/tonejo_index052.html">https://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/tonejo_index052.html</a>
江戸川河川事務所	<a href="https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa_index007.html">https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa_index007.html</a>
国土交通省浸水シミュレーション	<a href="http://suiboumap.gsj.go.jp/">http://suiboumap.gsj.go.jp/</a>

平常時

## 「いつ、何をするか」の目安

台風発生～洪水発生の  
1日程度前

雨風が強くなる前に、非常持出品の準備など、行すべきことを済ませておく時期です。台風などに関する情報を入手しましょう。また、発令される防災気象情報の意味を理解しておくことも重要です(33ページ参照)

洪水発生の  
半日前～3時間前

雨や川の水位などに留意し、避難行動を検討・開始する時期です。ハザードマップで避難場所や経路などを確認しておきましょう(5ページ参照)

洪水発生  
3時間前～洪水発生

避難場所への避難を完了するなど、身の安全を確保する時期です。逃げ遅れてしまったら、家の中の安全な場所に避難しましょう。



音声コード掲載